

事前にいただいたご意見及びその対応

資料 3

NO	委員名	意見		対応
1	村山委員	【第 4 章 3】分野別人権問題への取組「高齢者に関する人権問題」について		若年性認知症については、病気に対する苦しみのみならず、仕事や生活に支障をきたしたり、周囲に理解されないなどといった問題が生じていることは十分に承知しているところです。そのため、今回の見直しにおいて、「高齢者に関する人権問題」に追記し、計画への位置づけを行いました。 第 2 次基本計画は、国の「人権教育・啓発に関する基本計画」を踏まえ策定しており、人権課題については、国は13項目、本市は「水俣病」「災害に関すること」「性的マイノリティ」等を追加し20項目とし、社会的課題と言われる大きなくくりで整理しております。ご意見の意図は認識しつつも、現段階では原案のままとさせていただきたいと思います。
		資料 2 素案 p 23	上記事項内に65才未満で発症する若年性認知症について追記していただいたことはありがたいですが、分野別人権問題への取組（20項目）へ認知症者（高齢者・若年者含む）に関する人権問題として、独立に取り上げていただけなかったのは残念です。 せっかくの中間の見直しですので、20項目に固定せず項目数の増減や内容・題名についても見直ししてもいいのではと思います。	
2	前田委員	【第 4 章 3】分野別人権問題への取組「高齢者に関する人権問題」について		ご意見を踏まえ、情報発信（周知）の強化について追記いたします。
		資料 2 素案 p 23	市民意識調査報告書の25ページの結果に「在宅で生活する場合の支援体制が十分でないこと」が25％となっています。主な取組①と②で包含されているのかもしれませんが、対応の強化だけでなく、支援体制についての市民への情報発信の強化を強調してもいいのではないかと考えます。	
3	前田委員	【第 4 章 7】分野別人権問題への取組「性的マイノリティに関する人権問題」について		見直し案では、「①性的マイノリティへの理解及び支援・社会参画の促進」としていましたが、ご意見を踏まえて、「①性的マイノリティへの支援・社会参画の促進」と「②性的マイノリティへの理解促進」に項目をわけ、整理します。
		資料 2 素案 p 31	他の項目は周囲の人の理解・意識醸成、支援の充実など項目別に分けられています。この章も分けていただいたほうが理解しやすいと感じます。	
4	前田委員	【第 4 章18】分野別人権問題への取組「ホームレスに関する人権問題」について		ご意見を踏まえて修正いたします。
		資料 2 素案 p 49	小さなことですが、主な取組の②の文章の「ホームレスに対する偏見や差別意識を解消できるよう」は削除しても成立するのではないのでしょうか。実情を理解してもらうことが大切ではないかと考えます。	

NO	委員名	意見		対応
5	佐々木委員	【第4章1】分野別人権問題への取組「女性に関する人権問題」について		
		資料2 素案 p 18	女性又は男女、と性別の幅を広げて定義してあることが今の時代に合っていると思います。 先日仕事で出席したセミナーで、冊子に書いてあるように生活困窮やDV等女性（又は男女）特有の問題と障がいを持つからこそその問題を併せ持つ複合差別問題を知りました。 性別で起こる問題と障がいを持つことで起こる問題を分けて書いてありますが、併せ持っている人もいてWで困難な状況におかれているケースもあるようなのでそのような人のことも組み込んで良いのかなと思います。 （例） ・健常の人と障がいがある人とでは収入に格差がある、さらに障がいを持つ女性の場合はさらに低く100万ない程度とされている（福祉的就労を除く） ・DVにあった際にシェルターに避難しようとしてもそもそも障害のある人が来ることを想定していないので入れない。DVに関する相談窓口にも電話をしても、障がいがあることで別の窓口に繋がられて結果たらい回し状態になった ・妊娠出産した際の風当たりが強く、喜んでくれる人の方が少なかった。心無い言葉をかけられることがある 等	

NO	委員名	意見		対応
6	佐々木委員	【第4章4】分野別人権問題への取組「障がいのある人に関する人権問題」について		
		資料2 素案 p 24	「特別支援教育」についてです。 「特別支援教育」で障がいのあるこどもたちに適切な支援を行うことと、同年代の多様なこどもたちの中で共に生活することの両方が成長の為に必要だと考えているので、片方に寄ってしまわないようにお願いできればと思います。 私は一般の小中学校で肢体不自由の支援学級に在籍しながら、体育以外の授業をクラスメイトたちと共に受けてきました。また入院をきっかけに転校して支援学校で高校時代を過ごした後に、大学に進学しました。。 支援学級や支援学校で、まだ小学生のうちから将来の進学や進路についての話をしてくれたこと、体調を崩して教室に行けないときに私のペースに合わせて勉強を教えてくれたこと、どのように工夫したらクラスメイトと共に給食当番ができるか一緒に考えてくれたこと等、寄り添ってくれる存在がいたことは心強く助かりました。 一方で特別支援教育を理由に他のこどもたちと分けて教育してしまうと、本人が進学や就職を機に大人の手を離れた際に、人間関係の経験値が少ないが故にとっても苦労しているのを見てきました。社会性を学ぶこども時代に集団から長く離れていることはブランクでもあり、たまにある交流では正直ほとんど埋められなかったように感じています。	